



農作業メモ

秋まきアブラナ科野菜の

栽培のポイント

8月は、秋まき野菜の作付準備をする時期です。

秋は気温の低下に伴い野菜の生育が遅くなるので、作業の遅れが生育に大きく影響します。

適期に定植作業ができるように、しっかりと計画を立てて品質の良い野菜を生産しましょう。

1 ほ場の準備

(1) 連作障害対策

代表的な秋まき野菜の、だいこん、ブロッコリー、キャベツ、はくさい、こまつな等はすべて、アブラナ科野菜です。連作障害を避けるため、同じ場所に続けて作らないようにします。

根こぶ病や菌核病などの土壌病害が発生したほ場では、感染源となる病原菌が土の中に潜んでいるため、発病の危険性が高くなります。計画的に輪作

して、土壌病害の発生を予防しましょう。

(2) 湿害対策

アブラナ科野菜は湿害を受けやすいので、水はけの悪いほ場では、外周に溝を切ったり、高さ10^{cm}程度の高うねで栽培しましょう。

2 土づくり

地力を維持するため、年に1度、完熟たい肥を10^{kg}当たり約2^{kg}、作付けの1か月程度前に施用し、有機物の補給を行います。

乾燥鶏ふんは、窒素含有率が高い(窒素成分3%程度)ので、有機物としてではなく肥料として考えましょう。

3 は種・育苗・定植

ハウスで育苗する際は、換気をして温度が上がりが過ぎないように注意します。日差しが強い時は白寒冷紗で遮光し

て、苗に強い日射が当たらないように管理しましょう。

4 病害虫対策

(1) 害虫対策

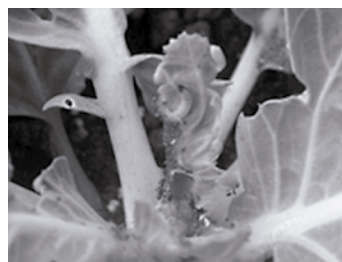
8月から10月にかけて害虫の発生が多くなります。育苗中は、は種後から防虫ネットをかけて害虫の侵入を防ぎましょう。は種時や定植時に粒剤等を処理すると、一定期間、害虫を防ぐ効果があります。

アブラナ科野菜を食害する害虫には、育苗中や定植後間もない時期に、芯(生長点)を食害するハイマダラノメイガ(写真1)、株の根元を噛み切るネキリムシ類(写真2)等があります。これらの害虫は、ほ場や年によって多発する場合があります。多発すると収量を著しく低下させますので、発生がないかこまめに観察して防除等の対策をとりましょう。

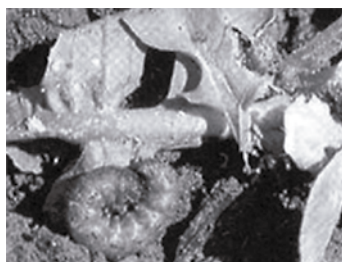
(2) 病害対策

台風通過後には、風雨により株が傷ついたり、泥はねで病原菌が飛散するため、軟腐病・黒腐病等の病害発生

危険性が高くなります。天候が回復しだい、早めに薬剤散布を行います。



【写真1】ハイマダラノメイガ幼虫
体長15^{mm}程度



【写真2】カブラヤガ(ネキリムシ)の老齢幼虫
体長40~45^{mm}

写真 埼玉県病害虫防除所

農薬を使用する際は、必ず使用農薬のラベルを確認し、記載内容のとおりに行いましょう。